



令和 7 年 1 月 22 日

市政記者クラブ 様

経済局イノベーション推進部次世代産業振興課  
担当：加藤(雅)、岩間 電話：972-2418

## 令和 6 年度フィールド活用型支援事業「Hatch Meets」実証プロジェクト



「やりたい」と「できる」を生成 AI で繋ぐ！

協働マッチング支援システムの社会実証を実施します！

「Hatch Technology NAGOYA」フィールド活用型支援事業では、フィールドを活用した社会実証を推進する産学官連携のネットワークコミュニティ「Hatch Meets」において実証プロジェクトを立ち上げ、社会実証を実施しています。

このたび、現地で実証の様子を見学いただける機会を設けますので、ぜひ取材して下さるようお願いします。

### 記

## 1 プロジェクトの概要

「やってみたい」アイデアはあるのに、誰と組めば実現できるのか分からない。そんな潜在的なチャレンジの種を、生成 AI で支援する実証実験プロジェクトです。

コミュニティ「Hatch Meets」では、新たな実証実験の種を生み出すため、年数回ワークショップを開催しています。ワークショップでは、参加者がそれぞれ持つ技術やフィールド、興味や挑戦したいことなどを挙げ、それらをマッチングすることで実証につなげることを目的にしていますが、多くの参加者の中から最適な相手を探すには時間が限られていることが課題でした。

そこで、本実証実験では、生成 AI を活用した 2 種類のマッチング支援システムを試作しました。1 つ目は、新たな事業アイデアや社会課題に対して「誰とどんなことができそうか」を提案する対話システムです。2 つ目は、グループ対話の音声認識結果からリアルタイムにマッチングの可能性を可視化するシステムです。この実証を通じてマッチング可能性や提案内容の質を向上させ、協働・共創を促進する AI の社会実装を目指します。

## 2 実施主体

実証事業者	名古屋工業大学白松研究室（名古屋市） ハイラブル株式会社（東京都豊島区）
フィールド提供者	実証事業創出コミュニティ「Hatch Meets」 （経済局イノベーション推進部次世代産業振興課）

### 3 プロジェクトの期間

令和 6 年 7 月 1 日から令和 7 年 2 月 28 日（予定）

### 4 公開実証

日時	令和 7 年 1 月 29 日（水）18 時 30 分～20 時 30 分
場所	名古屋工業大学 NITechHall 2 階 ラーニングコモンズ（EPSON STUDIO）
内容	「コミュニティ工学ワークショップ」での実証実験 ※ワークショップの詳細はリンク先をご覧ください。 <a href="http://community.web.nitech.ac.jp/">http://community.web.nitech.ac.jp/</a>



取材していただける場合は、誠にお手数ですが、1 月 28 日（火）正午までに、次世代産業振興課（TEL:972-2418）へご一報ください。

#### <実証イメージと概要>



(1) 協働の可能性を提案する対話システム (2) リアルタイムに協働可能性を可視化するシステム

#### <実証によって解決・改善したい課題>

新たな協働を検討する際、主に以下のハードルが存在する。

- ・誰がどんなリソースを持っているのか、誰とどんな協働や共創の可能性があり得るかを全て知ることは困難
- ・発想や想像力の限界により、新たな協働や共創の可能性に気づき難い

#### <実証する技術>

音声認識結果から抽出した各組織の情報や、Web から収集した各組織の情報をを用いることで、協働の可能性を大規模言語モデル（生成 AI）が提案するシステム

#### <実証技術に関するお問合せ>

名古屋工業大学白松研究室  
ハイラブル株式会社

siramatu@nitech.ac.jp（担当：白松）

contact@hylable.com（担当：水本）

#### 【 参 考 】

「Hatch Technology NAGOYA」は、技術の研究開発や社会実装を促進し、先進技術を有する企業等の集積を図るため、様々な課題に対応する先進技術を活用した社会実証を名古屋市が支援する事業です。



「フィールド活用型支援事業」とは、本市及び民間施設等を社会実証の場（フィールド）として活用するため、場の提供と課題の整理・解決をするネットワークコミュニティ「Hatch Meets」を産学官で立ち上げ、先進技術を有する企業等の提案や実証ニーズを実現するものです。

※名古屋経済記者クラブに同日提供